

採択理由

プログラム名： 国際共同研究の推進
課題名： 熱帯作物分子育種基盤構築による食糧保障
代表者名： 関 原明
所属機関名： 理化学研究所

コメント

本提案は、モデル植物で行われたゲノム情報の網羅的解析のノウハウを、アジア・アフリカの重要作物であるキャッサバに適用し、その分子育種に生かしてゆく試みである。日本の先端解析技術をアジアで生かす取組として高く評価される。また、キャッサバが悪環境でも生育可能であり、一定の収穫が見込まれる作物であることから、食糧安全保障と貧困緩和の問題の解決にも貢献することが期待される。

なお、代表研究機関の研究実績・高い研究実施能力に鑑み、(1)実施期間中の共同研究機関の具体的な研究内容の充実、(2)機関相互の継続的な共同研究体制の構築、(3)形質転換技術とキャッサバの有用遺伝子を用いた分子育種研究成果を課題期間終了後も継続して検証すること、を期待する。加えて、本課題が貧困緩和のための食糧生産に係る重要な研究であることから、データベースの構築に留まらず、キャッサバの生産及び消費に関わる社会経済的状況に対応した情報の発信も望まれる。